

小学校では、4月にできていた約束事ができなくなったり、中学校では、部活動が始まったりして、小・中学校ともに人間関係によるトラブルが起きてくる頃だと思えます。日常生活における子どもたちの言動を見つめ、学級の中においてどのような風が流れているかを把握していきたいものです。規律と人権感覚を大切にしつつ、動き始めた係活動をさらに充実させて、5月の風と同様に爽やかさが学級の中に広がるよう、学級活動を構想していきましょう。

## &lt;小学校&gt;

## 学級づくりをキャリア教育の視点から見ると

## みんなでつくる「学習の約束」

活気と落ち着きのある学級づくりに大切なのは、何と言っても授業です。そして、授業の充実のためには、「学習の約束」が欠かせません。「みんなが気持ちよく学習するために、みんなで大切にしたいこと」を考え合う過程を重視し、クラスならではの「学習の約束」をみんなでつくりましょう。



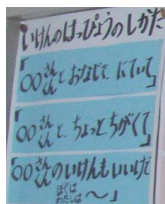
## 1 学級目標と関連付けて

学級目標が「友達を大切にしよう」ならば、「話す人の方を向き、話を『目』と『心』で聴こう」のように、学級目標の達成につながる「学習の約束」を設定しましょう。



## 2 「見える化」で「意識化」を

みんなで決めた「学習の約束」を教室の目にふれるところに掲示し、子どもの1日の振り返りに、必ずその点にふれさせるなどして、常に約束を意識して生活できるといいですね。



## キャリア教育と日直当番

日直当番の活動が始まると、ふっといなくなったり、ただ見ているだけだったりする子どもがいたらどうしますか？

○仕事の見通しが持てるように、内容をわかりやすく伝える。

目で見て理解しやすく、手順が明確な当番表を教室内に掲示し、折にふれて帰りの会などで確認しましょう。

○まずは2人1組で始める。

最初は、2人で同じ活動をするところからスタートさせ、それぞれの取組のよさや課題を互いに伝え合う場面を設定しましょう。

○働くことの大切さを実感させていく。

「やるべきことをやる」これができた時その機を逃さず、満面の笑みで賞賛していきましょう。

責任をもって、日直当番など与えられた役割を果たす経験をすることは、子どものキャリア発達を促していく意味で重要です。

## &lt;中学校&gt;

## 学級づくりをキャリア教育の視点から見ると

## 「うぜえ・消えろ」への初期対応

入学式から1か月もたつと、クラスの人間関係が深まってきますが、その一方で、男女ともに言葉遣いが荒くなる等、気になることも出てきます。「うぜえ・消えろ」は子どもたちに遣わせたくない言葉です。これらの言葉が教室からなくなるよう以下の型から対応の仕方を考えてみましょう。

<スルー型>…（最近の中学生にとってはあいさつがわり…）と聞き流す。

<規制型>…「そういう言葉を使ってはいけません！」

<話し合い型>…生徒主体の話し合いを提案。

<科学的予防型>…言葉のエスカレートを図示したり、データを示したりして説諭する。

<ゲーム型>…「その言葉一回使うごとにマイナス1枚」

<どうした型>…「どうした？」と声をかけ、なぜそう言ったのか理由を聞く。

上記の対応がはらむ危険性または効果、その後の見通し等を職場で話題にしてみましょう。

## 生徒の創意工夫を生かした係活動

学級における係活動は、自分たちの学校生活をよりよくするために行われるものです。

○係活動で育むこと

係活動では、与えられる活動に取り組むだけでなく、自主的に取り組む態度を育てていくことが重要です。

○そのために大切にしたいこと

それぞれの役割を任せた後は、生徒の動きを見守る忍耐も大切です。

○教師が評価していくこと

できないことを指導するよりも、できたことを認めていくことです。

《任・忍・認》の3つの「にん」を大切に意欲的に取り組める係活動にしていきたいと思います。学級という一つの社会に積極的に働きかけていく創意工夫を生かした係活動は、生徒のキャリア発達を促していきます。